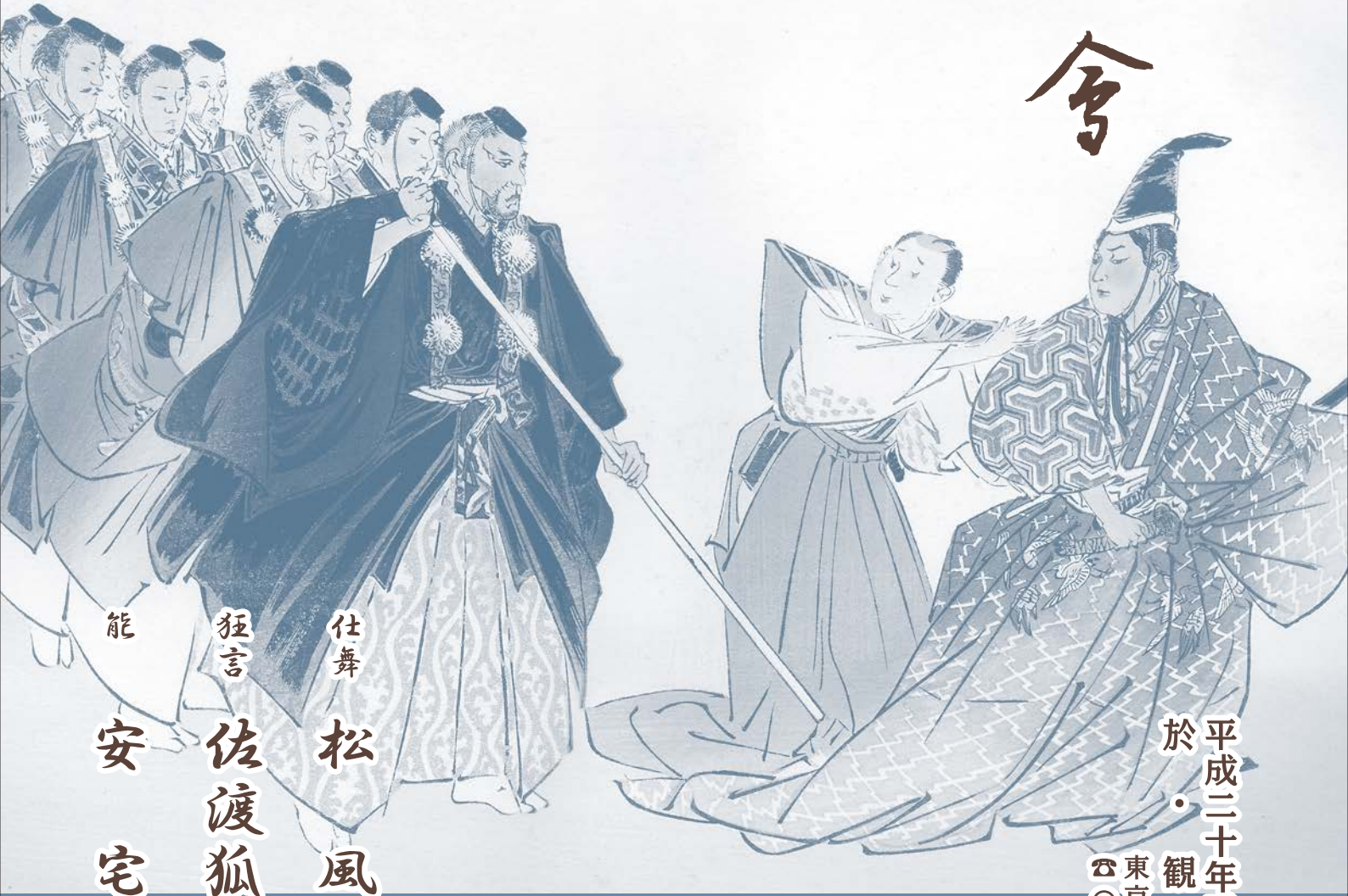


第十回 明月之會



能
安宅
加藤 眞悟

狂言
佐渡 狐
山本 泰太郎

仕舞
松風
梅若 万三郎

平成三十年五月五日(月・祝)三時始
於・觀世能樂堂

東京都渋谷区松濤二―十六―四
☎〇三(三四六九)五三四一

第十回記念 加藤眞悟明之会

解説 表 きよし
(国土館大学教授)

(二時二十分頃)

阿古屋松

あこやのまつ：松のめでたさを謡う、世阿弥作の番外曲

独吟

梅若万佐晴

松風

仕舞

梅若万三郎

地謡

梅若 久紀
遠田 修
伊藤 嘉章
遠藤 和久

まつかせ：在原業平の愛を受けた若い海女の松風が、恋慕の思いにむせぶ舞の最後の部分を紋付袴姿で舞います。

佐渡狐

狂言

シテ(佐渡の百姓) 山本泰太郎
アド(越後の百姓) 遠藤 博義
アト(奏者) 山本 則直

さどぎつね：都に年貢を納めに向かう道中で佐渡と越後の百姓が一緒になった。二人は佐渡に狐がいるかいないかで言い争いになり刀を賭けて争うことになる。本当は佐渡には狐がいませんが、佐渡の百姓は見栄をはって嘘をついてしまい、都で役人にどちらの言うことが本当か判定してもらおうことになる。狐を見たことがない佐渡の百姓は賄賂をつかって役人に狐の容姿を教えてもらい賭けに勝とうとするのだが…。

平成二十年五月五日(月・祝) 二時始
於・観 世 能 楽 堂

(三時十分頃)

休憩二十分

安宅

能

勧進帳

シテ(武蔵坊弁慶) 加藤 眞悟

子方(源義経) 加藤慎一郎

ツレ(郎等) 梅若 紀長

ツレ(郎等) 長谷川晴彦

ツレ(郎等) 梅若 泰志

ツレ(郎等) 青木 健一

ツレ(郎等) 古室 知也

ツレ(郎等) 八田 達弥

ツレ(郎等) 青木 一郎

ワキ(富樫某) 安田 登

アイ(太刀持) 山本 則孝

アイ(強力) 山本東次郎

笛 松田 弘之

小鼓 幸 信吾

大鼓 亀井 広忠

後見 中村 裕

梅若 梅若万三郎

梅若 久紀

梅若 雅一

遠藤 和久

遠藤 清水

遠藤 柴田 寛二

遠藤 修 柴田 稔

主催 (終了予定五時頃)

加藤眞悟 加藤眞悟明之会

ホームページ http://shingo.from.tv

携帯メール shingo55kato@ezweb.ne.jp

安宅

富樫の某(ワキ)が、太刀持ちの家臣(アイ)を連れて登場し、名乗りを

して「判官義経が十二人の偽山伏の姿で奥州に下るとの噂があるので、頼朝殿から関を作って、山伏を探せよとの命をうけて、自分がこ

で待ち受けている」と述べ、家臣に「山伏が来たら知らせよ」と命じます。

義経(子方)を先頭に、弁慶(シテ)をはじめ九人の立衆と強力が登場、一同が「旅

の衣は篠懸の、旅の衣は篠懸の、露けし袖やしをらん」と謡い、続けて一同で、

京から安宅への旅の様子を縁語、掛詞等で謡います。

義経が「今、通った旅人が、ここに新関を設けて山伏を取り締まっていると言っ

ていた」と言うので、一同集まって相談します。強行突破を主張する者もいます

が、弁慶が「それでは、今後の行動が大変になるので、義経に変装してもらおう」と提案、強力と衣装を交換して、一同の後からとぼとぼついていくことにな

ります。

関に着くと、富樫が「ここでは山伏を通すことはできない」、富樫の家臣も「昨日

三人の山伏を切った」と言います。弁慶は一同を集めて「これが最後の勤行(ごん

ぎよ)だ」と山伏の祈禱を始めます。祈禱を終わって「ここで本場の山伏を討ち

取れば熊野権現の天罰が下るであろう」と脅します。富樫は「山伏であることは

わかったが、東大寺の勧進なら勧進帳を読んでみよ」と言います。弁慶は何も書

いてない巻物を広げながら、大声で勧進の趣旨を読み上げたので、関所の一同は

恐れ入って通すことにしました。ところが、富樫の家臣が「あの強力が判官殿に

似ている」と言い出し、双方が緊張する場面になります。すかさず弁慶が金剛

杖で義経を何度も打ちますので、富樫も怖れをなして通過を認めました。(富樫は、

勧進の山伏と信じて通したのか、義経と知っていたのは微妙なところ)

関を十分に離れてから、弁慶が一同の前で主人を打ったことを詫言いますが、義

経は「その機転こそ天の加護だ」と慰めます。しかし、一同はこのような苦境に

陥った天の配剤を嘆き合うのでした。そこへ富樫が「先ほどは粗相したので、酒

をもつて謝りに来た」とやってきました。再び一同は緊張しますが、弁慶と富樫は

酒を酌み交わし、富樫の求めに舞を披露します。舞終えた弁慶は富樫に暇を告げ、

一同そとと旅立っていきます。

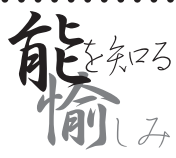
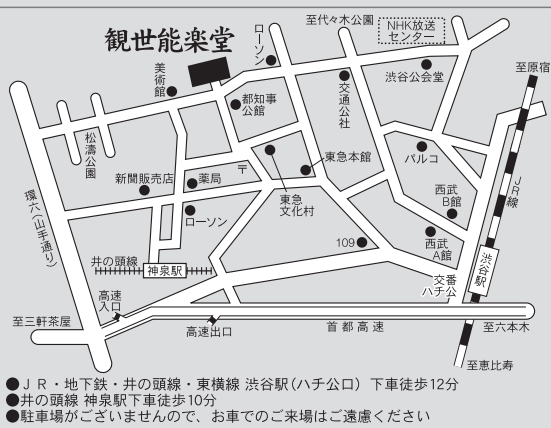
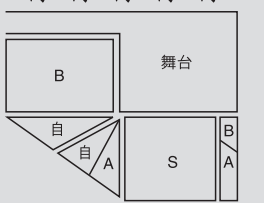
【入場料】

指定席 S	八、〇〇〇円
指定席 A	七、〇〇〇円
指定席 B	六、〇〇〇円
自由席	五、〇〇〇円
自由席	三、〇〇〇円

【明友の会会員募集】

入会金	一、〇〇〇円
年会費	一、〇〇〇円

・明之会公演の入場料一割引
(一会員 三席まで)
・会報や演能、勉強会のお知らせなどを
お届けします



能楽体験講座
能の話、謡と舞の基本の型の体験をします
『鶴亀』を謡ってみよう

日時 ■平成20年5月22・29日、6月12・26日、7月3日(各木曜)の午後2時~3時30分
会場 ■本行寺(JR日暮里駅西口1分)
講師 ■加藤眞悟
受講料 ■10,000円(5回)、教材費 2,100円
●ご予約・お問い合わせ ☎045-481-8704 加藤眞悟